

1008
1

瓜哇天日本國書

まゝのつきのつゝのりかま
各方を其の盛りに其の勤學をなされ
市々目出交けん下るささくを以て
小學の教大なり其け者方小於し
暇を其採りてまゝ所ある趣を以て
小のどし免角其地小道可なり其書
籍を以て之く是の遺憾小存し
今も其く之あるを以て只管彼を以て

わー我を後ーいたー抑留の
のー少くは是より聖人氏を教ゆる
能はざる其之ある者其後其官
を文部少卿より専ら學制を儀
之ー其事未だ未だ之を視
ざる小患ひーさう由り有志の人
を多し毎り必し辨を費し何
卒此心をもたし用ひて訓蒙之地

能文を著述しー其切りお勅
知ん某もまた其終の余暇を求め
寐余の時を短しー力めて草を
起し草をたす道外り心記ゆ
たーゆえに世に著しき
之あるをん之より由り今又福外
校本の皇國地理略とありて文を
とー著し其を教人日記名録に

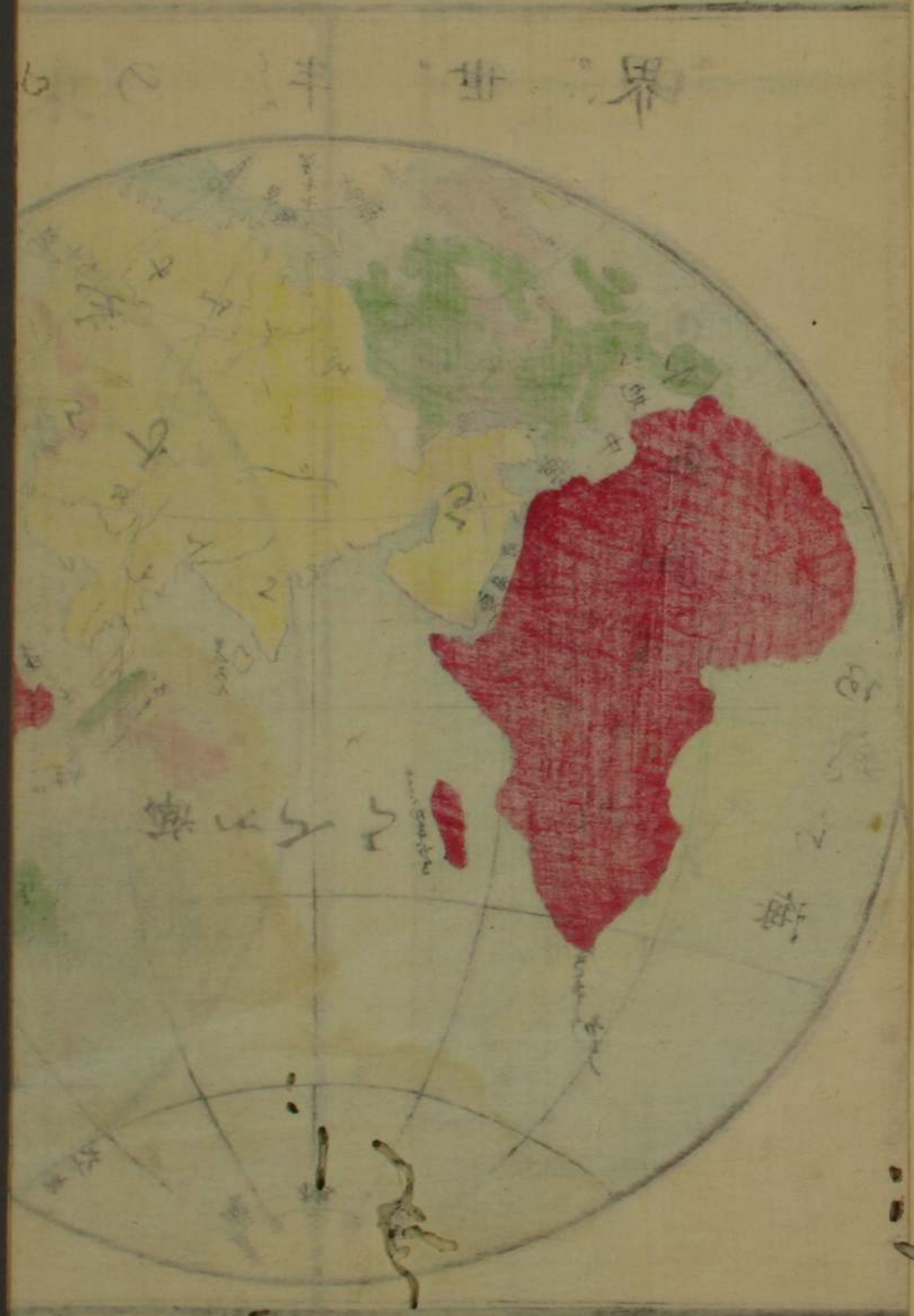
今、いふる新書を刊行し、日本全圖の地理概略を記し、日本全書、表題として、各方の漢字をひたさず、本頁一種に文をいふこと、此板本所、竹書報、つた、一、昔、各方、あ、を、出、入、の、得、と、せ、又、と、あ、い、ま、ひ、た、さ、せ、我、が、日、本、の、地、理、を、い、ま、信、ん、一、之、あ、ま、い、ら、く、次、に、福、澤、氏、が、世、界、全、圖、畫、を、い、ま、ま、い、た、さ、し、れ、り、

い、我、を、後、ふ、一、て、彼、を、出、入、不、止、る、能、課、を、あ、く、全、世、界、地、理、乃、概、略、を、知、る、一、於、く、要、旨、を、ま、ま、と、も、し、べ、く、い、此、等、乃、ま、ま、し、く、海、外、列、之、あ、ま、い、た、く、な、り、也、

瓜分の書

子供

各方



西の半の世の界

東の半の世の界





瓜生氏日本國盡卷一

總論

凡此地面以上之物
 此中少物者皆其
 子也其子者其
 子也其子者其
 子也其子者其

あつたの如く地面乃ち其
初なる其最なる一と
其の如く夫を地と名づ
し之を極と極の二と之
を因に地を極と名づ
地球と申すは其極の二

乃形を頭小極あるを
面より高極あり之を地球
極なるを南極小極と
す北極の端と名づ其
の如く極の高極あり山
極より海と河の水陸と水

大月水の二分一
 内小國の數おほく。林の如く
 了るる並ぶ。中國を一集
 し。其をより區別し
 亞細亞。弗利加。歐羅巴。南
 亞。墨利加。大洋洲。名を
 する

大日本



大日本全國之圖

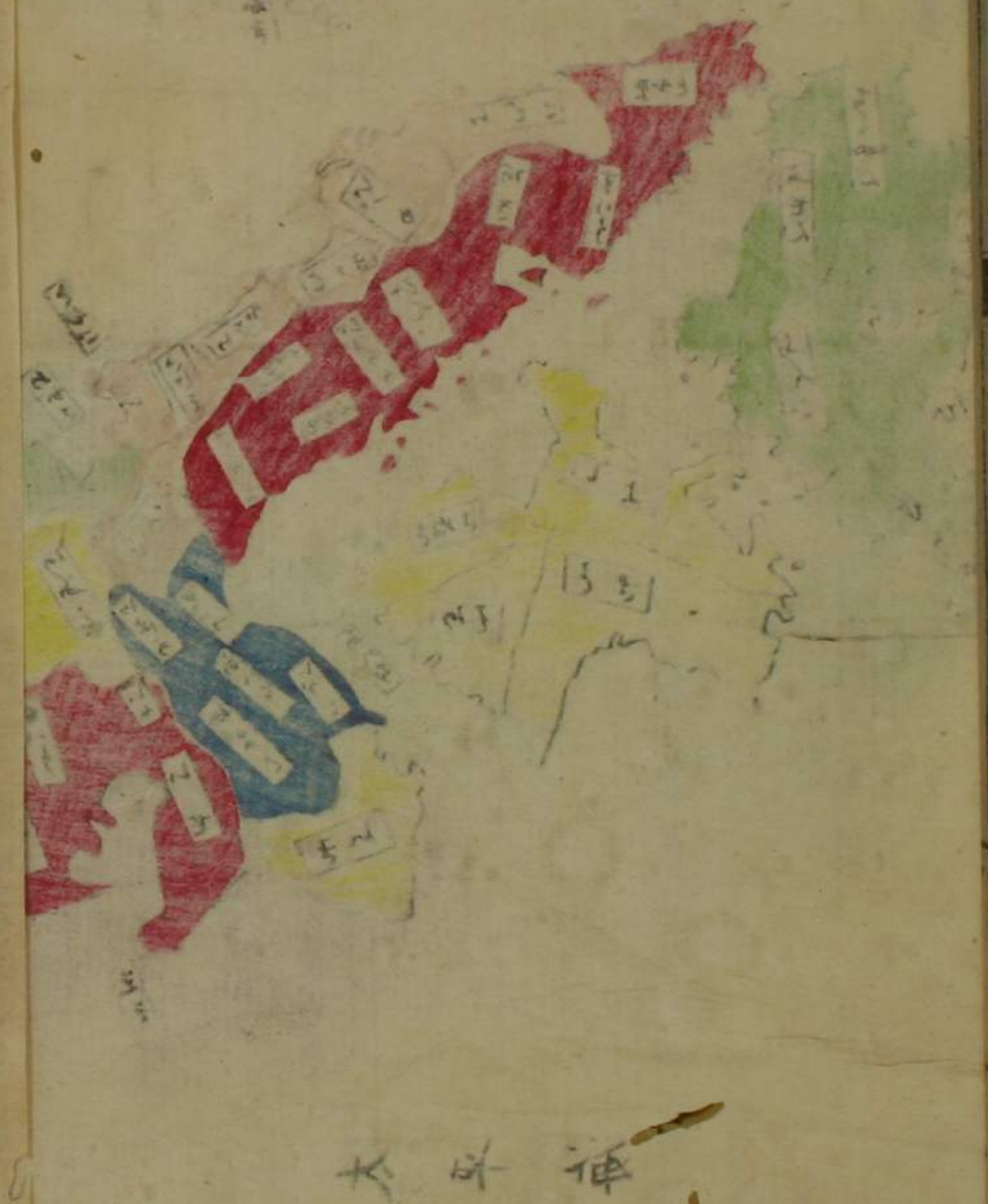
日本海

太平洋

海峽



圖文



大日本

五大洲のふ其てを知らん
 多々先づ生きたる本國の
 家と思ふ事お習ふべし
 世界は廣く萬國を多々
 中しん輝きそ其名を以
 する日の本亞細亞の中

東隅太平洋の如く、
北に一帝國四方海あり、
南に西の朝鮮、
日本海をお隔し、
西と相接し、
國内一倭の縁
あり、
西に利比洲あり、
縁を

引き中ふ火山あり、
また海し、
土地の象々たる、
字に幅狭
く、
海は長く、
一里四方、
教
あり、
其坪二萬三千と、
二百
六十、
余あり、
其人口の
大凡に
三千二百
十萬、
氣候溫和

地味に紀之五穀射産豊
少人の守智も他へ優生
学校乃数年亦増し其化
え日なり色々以て陸小紅
鏡乃傳所撰水少も其先
大輪船東洋一の國我

徳(中)國の強孫大八崎又
豊之草原乃水種國も言
つる事一の
神武天皇以来長く大和
京都を以て國をヤマト
水も又ヒモトと云ふ

よき契倭國より日本の文字
を用ひて音讀を古來の
十八物ありて五畿七道と
多岐あり。分て海外あり
ありてを去る成原の冬八十
四物五畿八道と新く改め

字を改め天を

今上帝。睦仁天王鳳雛を

武甕の江戸少強め玉ひ持を

東京を改めく。元々皇居

を白文と云ふ字内を採の改

文に昔より云復り。漢治乃田

五畿之内之圖



弊跡^{あき}えんふど。全^{ぜん}國^{こく}の^し府^ふと
 七^{あち}十^{じゅう}二^にの^に。叙^{しよ}を^を置^おき^て都^と
 鄙^ひ遠^{えん}近^{きん}王^{わう}化^{くわ}を^を作^しる^に。ぬ^ぬ獨^{どく}
 な^なく^く。突^げり^り。類^{たぐひ}あ^あま^ま。都^とに^に世^せふ
 その^{その}あ^あま^ま。法^{はふ}

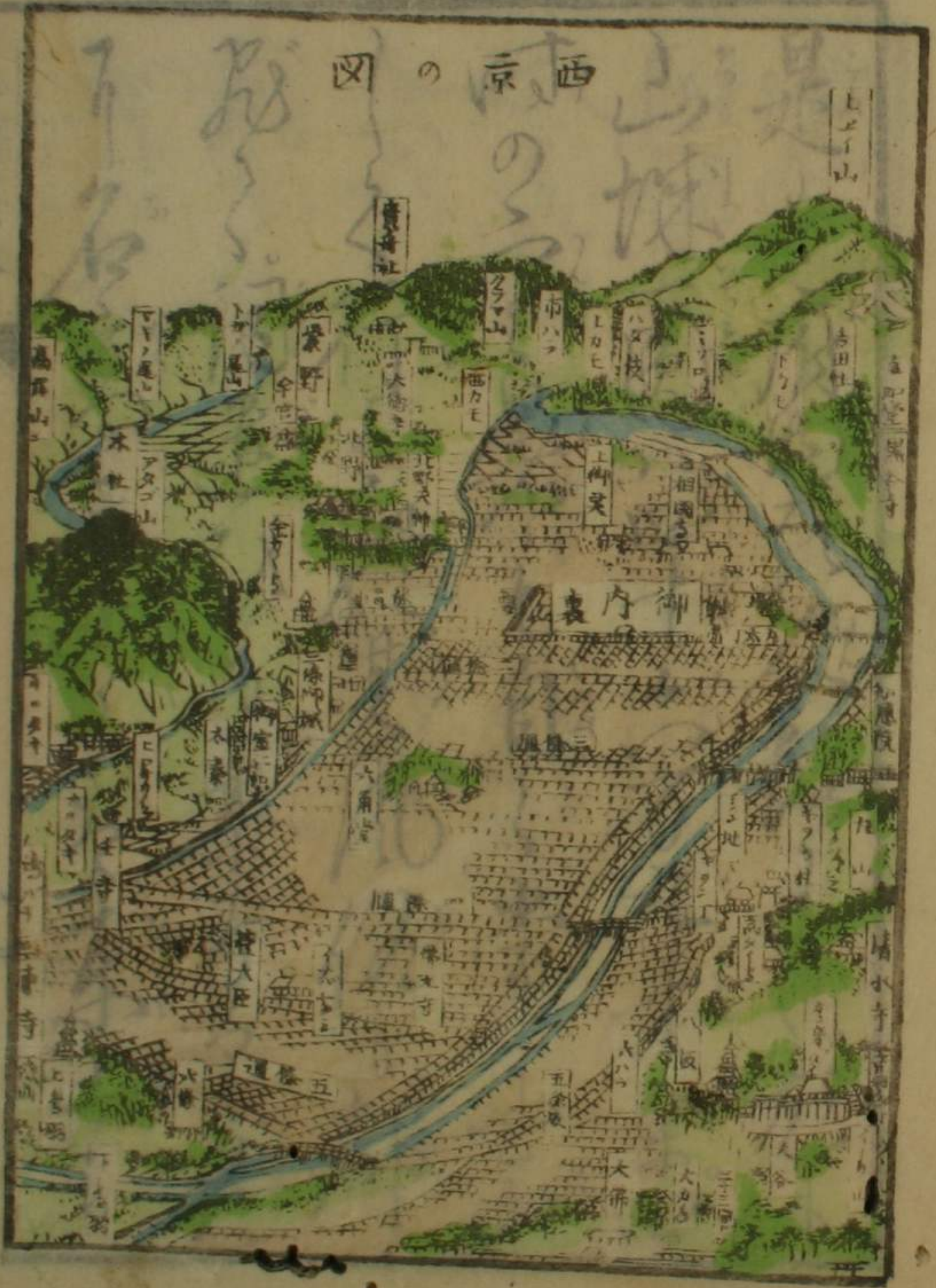
畿内五國

冬山城乃。東を繞る。西を
 海解の。方陸地あり。
 東山城名。北。南。東。西。方山
 冬。西園。海。國の。其
 中。水田。中。昔。極。武。終

日本國書



帝みかどより以來いらい隆たかきし王わう都と
 由よ今いま尚なほ之を京きやう都と府ふ
 申まうて府ふ政せいを置おけし
 里さと大おほ道みち基もと終つひの目め乃なと
 九く條じょうより分わりて小こ路ぢを
 是こゝより村むらなる人ひと口くち三さん十じゅう七しち百ひゃく余ま



是を府内人数に九
 山城一圍に四十六万九千余
 町のまゝも自に帯ふ正
 行は其風俗都
 能く詞事ひも柔なるを
 了く名なるまゝ東山



流山愛及之なる高嶺小嶺なる山
續々梅原の川とち鴨宇治大堰
本津川の清流取らるる淀
つる。續也。錦糸絹布。小鴨
川。阿友仙染。白川。石也。砥石。於
清水。陶器。宇治の茶。是を

此地の土産物も。京都府
廳に管及。續々山。株。一園之小
又。丹波の内。乃之郡也。
二。小大和。と。子。中。山。海。お
國の。その。二。今。より。二千
五。百。又。二十年。年。の。その。昔。

神武天皇平定以集累
世の西都の古地を基とし山
陵をり数世に及ぶ。其後内
なる山を以て山色する
平地を以て和銅三年より起
る。天應延暦の以てす。七十餘

年のゆゑに皇居のありし
都ゆゑに南都と名を
稱す。大和國安土郡の
所居の地あり。當國中
の人口は三十四萬七千人
國の産物も亦十餘萬あり

南より北に流るる水
平河の冬季候は山に積りて
寒く若ともり温和少く
其風俗もおのほのほしく
尖き所あるは國東南
山深く峯を重ぬる芳

那山嶺の名所海内一西少
昔城全割山少く福願
喜日山川野大和川
子氣のふれ旧路も古物
今より尚然るは目を意を
ぞのあなる其産物の素

其西乃那凍小油烟等是
其西乃那凍小油烟等是
其西乃那凍小油烟等是
其西乃那凍小油烟等是
其西乃那凍小油烟等是
其西乃那凍小油烟等是
其西乃那凍小油烟等是
其西乃那凍小油烟等是
其西乃那凍小油烟等是
其西乃那凍小油烟等是

其西乃那凍小油烟等是
其西乃那凍小油烟等是
其西乃那凍小油烟等是
其西乃那凍小油烟等是
其西乃那凍小油烟等是
其西乃那凍小油烟等是
其西乃那凍小油烟等是
其西乃那凍小油烟等是
其西乃那凍小油烟等是
其西乃那凍小油烟等是

里持津の大坂へ通ふ藤人
は水より使ふと求めぬ者我
方我國の生の中を大和川
流き通りて諸の小川及び
み西乃方持津の海へ流き
行くは稍南狭山とて農

園小滝と大池あり昔出宗
祚帝の時に北より水の乏き
を憂ひて玉ありて堰とて
本物池の始なるも國中廿一
万と云ふ九百の人曰くそ東西
五里より大坂より十里の

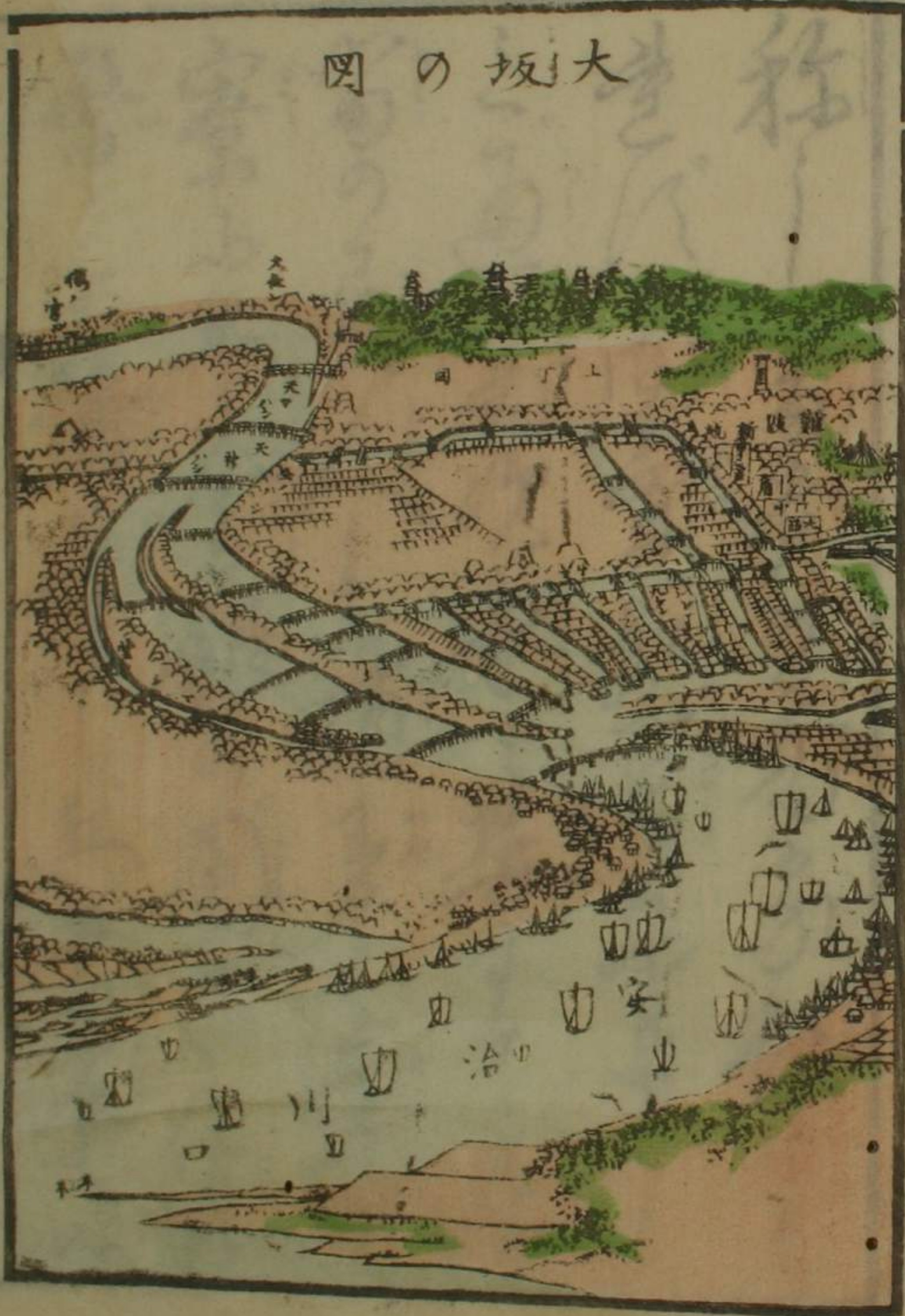
四里水也。上下男女。衣布。衣之。風候。氣。積。氣。之。了。元。候。も。暖。氣。多。く。と。そ。其。産。物。名。之。高。木。河。内。木。綿。小。金。割。所。也。四。和。泉。も。亦。南。り。也。

並。び。列。せ。り。水。海。も。亦。ち。於。此。國。中。平。原。又。多。し。平。原。北。り。極。多。し。也。櫻。木。の。津。也。架。橋。河。泉。也。場。少。く。路。の。東。り。之。國。乃。境。自。河。也。也。也。也。也。也。

河内水ヲ攝南ヲ乃チ和名
あり本ヤぶヨリ堺縣ニ
廳を立テ置テ河内ニ玉
を全轄ト一國人口二十万
國の東西五里計南
ハ十二里余ニ修テ河内

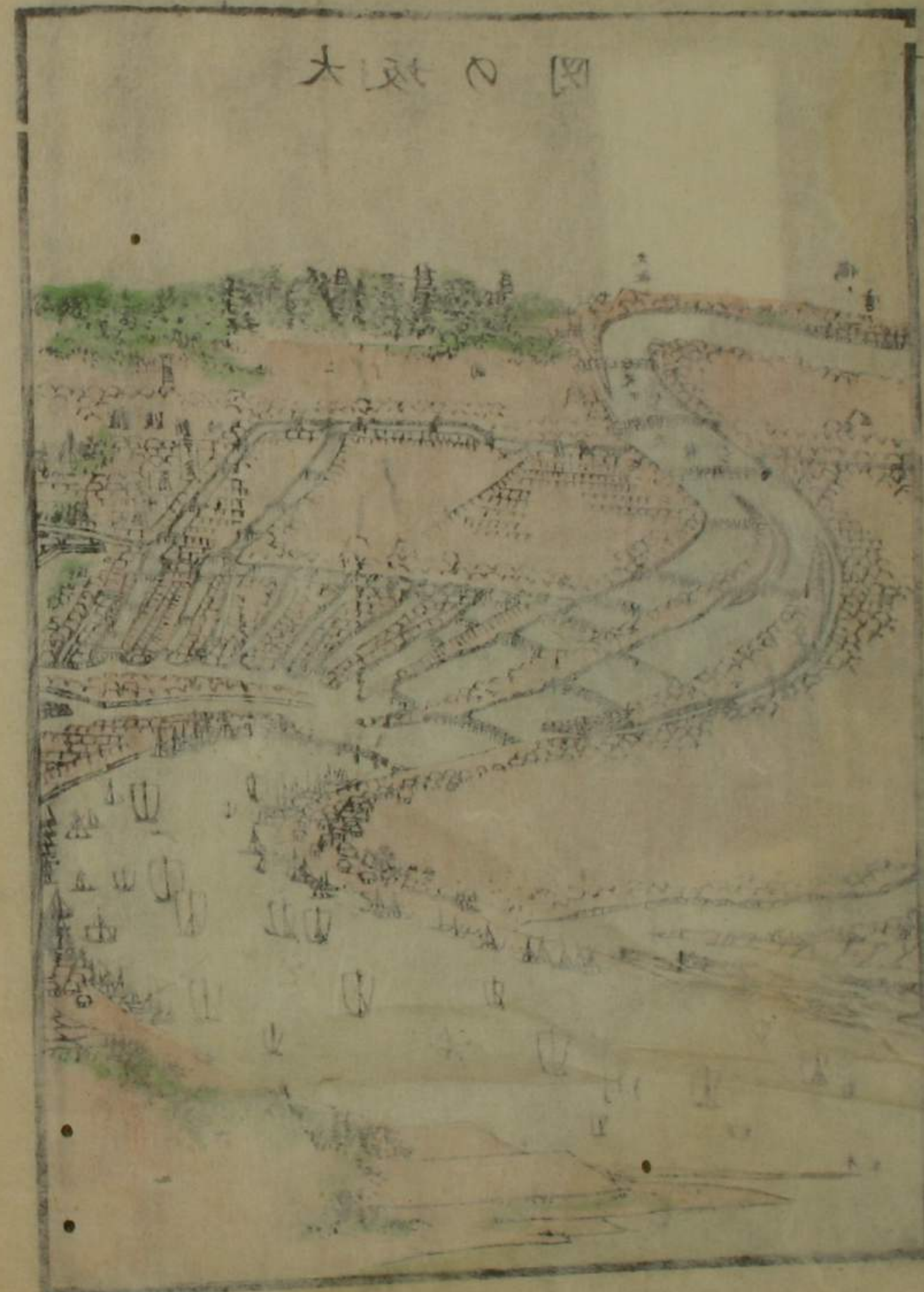
少美ら稱ト人の風俗
義者トテ其産物を酒
と調
乃五攝津ヲ畿の乾以城
大和河内ト名テ法少の水
出令流ト南ヲ海ニ水

大坂の図



山。大坂の岨。難波の津。
 実。一。宇内。乃。因。候。少。令。
 出。船。入。船。路。百。有。七。十。七。
 多。敷。の。大。港。を。冠。し。る。を。
 大。坂。府。東。西。二。京。あり。互。
 並。び。合。を。そ。と。三。箇。の。都。と。

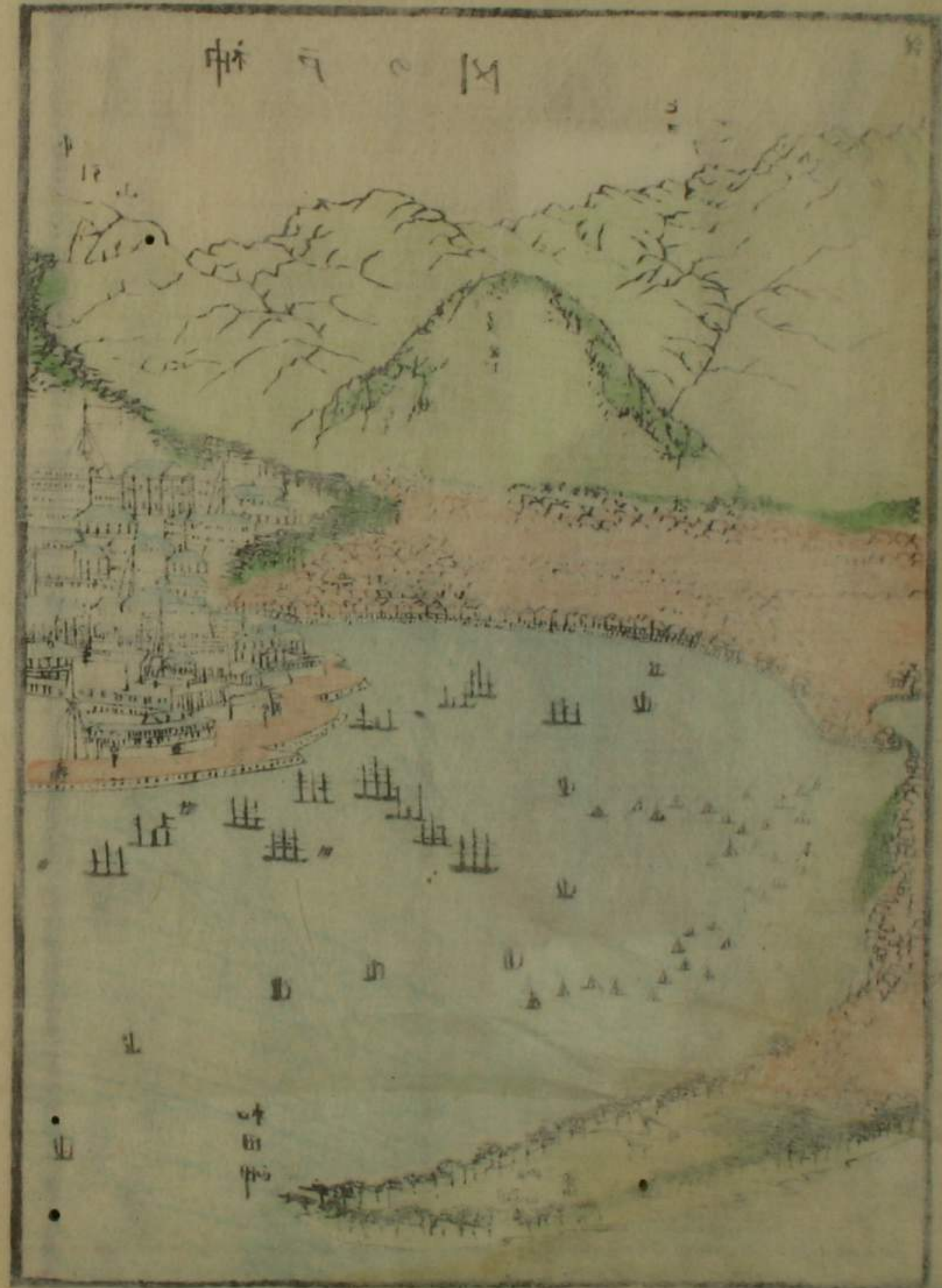
大坂の図



移し。富貴のあやう
 せ。高貴のあやう
 通る高次を築く
 留の出入を精造
 察し金銀の圓を
 幣を鑄造し兵學



数千の陸兵枝を練
 る。又府殿の管官格を當
 國内は七郡より五
 郡を西の方十里隔たる
 兵庫庫も其外陸乃策
 輕なるも兵庫小町の橋を



たる。神戸といふ一港
 へ。近來交易繁華の地
 居留の人も夥しく町
 極め、繁華を占む。此一國の
 人口、七十八万九千余。土
 地の廣さ、東西、

南ふいし十五のまゝあゝ。四時
のまゝ暑も暖おほく。玉
と風おほく善くまきおほし。
人のまゝ来虞の虚誇し。て
よ下とらんり。歎ふの
おほく。勝まき。名所よふ

兵庫の西に有馬山。痼
疾を愈む。温泉あり。摩
耶の山。布引乃純
のみ。水のちろ。終之。を
武庫山。神峰山。儀
松尾。須磨の浦。又名物の

品々々々天の美祿の伊丹
酒礎堅き御影石天王
寺甚著池田炭多あり

瓜生氏日本國盡卷一終

